

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策I-5-1 産業人材の育成
---------	-----------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	雇用政策課長 得能 昌信	電話番号	0852-22-5296
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	地域産業人材育成・確保推進事業		
目的	(1) 対象	新規卒業者、企業従事者、企業経営者、小中学校、高校、大学等	
	(2) 意図	県内企業に定着し、これからの地域産業を担う人材を育成・確保する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規卒業者などを地域産業を支える人材にするため、産業界と教育機関が連携して取り組める体制を作る。</li> <li>地域産業の振興を牽引する次世代リーダーを育成するため、自社の成長と地域内連携等に取り組む経営者や後継者に対して、塾形式のセミナー「人財塾」を開催する。</li> <li>県内「ものづくり企業」等の競争力向上を図るため、理工系学生の県内企業に対する理解を促す。</li> </ul>		

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	地域産学官連携組織構築市町村数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		5	6	7	8	
式・定義	地域の産業振興に必要な産業人材の育成・確保に向けて産業界、教育機関、市町村等が連携して取り組む市町村数	実績値	4	5	5	7			
		達成率		100.00	83.30	100.00		%	
指標名	人財塾を受講した経営者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		30	30	25	25		人
式・定義	人財塾を受講して、自社の成長と地域内連携等に取り組もうとする次世代の経営者、後継者数	実績値	35	35	26	25			
		達成率		113.30	86.70	100.00		%	

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	33,587	37,961
うち一般財源(千円)	33,587	37,961

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ほぼ全域で、産業界と教育機関が連携してキャリア教育の取り組みが行われつつある。
- 平成26年度の人財塾については、25名の募集に対し、25名が受講した。
- 理工系人確保支援事業については、高校生等36名、大学生23名、大学21校、企業56社が参加した。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

・人財塾は、第5期までで累計152名（31,35,35,26,25）が参加し、地域を担う次世代経営者の養成が進みつつある。  
また、OB有志による人財塾ネクストが結成され、学びを生かす機運が高まりつつある。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

- 産業界と教育機関が連携する取組は各地域で行われつつあるが、地域により活動の濃淡がある。
- 人財塾は受講生の確保はできているが、県西部や隠岐地区からの参加企業が少ない。

### ②困っている状況が発生している「原因」

- 産学官連携組織の役割を雇用推進協議会などが担うようになってきているが、同協議会の組織は基盤が脆弱である。
- 県西部や隠岐では、業務多忙を理由に参加を躊躇われることが多い。

### ③原因を解消するための「課題」

- 地域で自律的な活動ができるよう、産業人材育成コーディネーターによる支援を強化する必要がある。
- 人財塾の参加者の評価は高いため、参加者を通して人財塾のPRを行い参加を促す必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 産学官連携の支援  
産業人材育成コーディネーターを配置し、産学官連携組織の充実強化を図り、地域産業を支える人材を育成する。特に、新卒者や県外進学者の地元就職を促すとともに若年社員の定着を促進させる取り組みが必要である。
- 人財塾  
塾生を県内全域で確保するため、卒塾者や産業人材育成コーディネーターのネットワークや各種セミナー参加者を通して、人財塾のPRを行う。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）